



学校だより

令和6年2月29日

3月号

学校教育目標
～生き生き日枝っ子～

横浜市立日枝小学校



「まちの中で咲く日枝っ子の花」

校長 加藤 智敏

正門に咲く白梅の花びらが舞い、登校してくる子どもたちを温かく迎えてくれているようです。保健委員会が中心となりあいさつ週間も始まりました。子どもたちの挨拶の声と優しい表情が嬉しい毎日です。子どもたちを迎え終わり、ふと、舞い散る白梅の木を眺めてみると、ある枝だけに桃色の花が咲いているのが見えます。真っ白な白梅の中に凛として咲いている桃色の花はどこか立派で美しさを感じます。学校の子どもたちを考える時、それぞれに違いがあることを認め大切に、個々のよさを引き出すことのできる教職員、そして学校でありたいと思うある朝のひとつときでした。

2月17日に「日枝っ子まつり」が開催されました。セキュリティの関係上、入校者は運動会と同様に運営協議会委員の皆様、保護者と希望される親族の方、学習でお世話になった方々等に限りさせていただきましたが、土曜日開催としたことで、多くの方に子どもたちが今まで「なかま」の時間に学んできたことを見ていただきました。昨年度までの制限を緩め、全てのクラスを行き交うことができるようにした今年度は、賑やかさと人々のほころぶ表情を数多く見ることができました。人々が子どもたちのために集うことで、豊かな関わりと新たな学びと育ちを得た時間でした。本校同窓会の方々もこの日のために現存する卒業アルバムを整備して、2階の図工室前のホールに展示してくださいました。保護者の方々もたくさん集まってアルバムを手に取り、懐かしんでくださっていました。同窓会長の菊地様をはじめ準備いただいた皆様、ありがとうございます。新旧の「日枝っ子」が集い、つながれたように思います。

子どもたちには、今年度一年間、様々な人との出会いがありました。クラスの仲間、先輩や後輩、近隣の幼稚園や保育園、地域の方々や授業でお世話になった方々、そして先生たち。どれも子どもたちの成長の上で欠かせない出会いであったのではないかと思います。似た感性をもつ人、自分には無い視点をもつ人、優れた技能や能力をもつ人等々、様々な人と関わる中で自分の力を高めていました。今年度各クラスで取り組んだ「なかま」の活動は、同じ活動ではあっても、花びらが一枚一枚違うように、子どもたち一人一人の思いや願い、積み重ねてきた経験、学びも異なります。それらが重なり合う時、ある時は凛と際立ち、ある時は混じり合って様々な色の重なりよさを私たちに見せてくれています。私が朝に正門で白梅の前に立ち止まったのは、子どもたちが語るエピソードや表現の豊かさに重なるものがあつたからかもしれません。

3月です。あっという間に1年が過ぎようとしています。学校では19日に6年生が卒業します。新しい1年生を迎える4月からは、5年生が6年生からバトンを受け取り進学する6年生に代わって学校をリードしていきます。また、他の学年も新しい学年に進級します。それぞれの花を、自分らしい花を咲かせられるよう、日枝のまちの中で、豊かな関わりの中で育ってほしいです。

「子どもたちのために人が集える学校」の創造に向け、今年度一年、子どもたちの学びや育ちを支えていただき、誠にありがとうございます。来年度も保護者、地域、関係諸機関の連携をより一層強固なものにしていきたいと思っています。変わらぬご協力とご支援をよろしくお願いいたします。